



* やまだ れんしん (左) 山田 漣辰 さん *

園芸科草花部門2年

植物に興味があり、鹿屋農業高校のオープンキャンパスに参加。敷地が広く、設備も整っていることから入学を決心。好きな花は、深い赤色のダリア。見ていると吸い込まれそうな色と形が好き。



* やまのい こはる (右) 山野井 心春 さん *

園芸科草花部門2年

花を育てることが趣味の祖母の手伝いから、花に興味を持つように。進学時に鹿屋農業高校に園芸科があることを知って入学。好きな花は、初めて母の日に送った赤のカーネーション。



* おおひら たつみ 大平 龍美 さん *

南国フラワープランツ 代表取締役

大浦町出身。15年ほど前に両親から同社を引き継ぐ。妻・幸子さんと従業員と野菜や花などの苗を生産しており、園芸用だけでなく農家向けの野菜苗も販売している。好きな花は、フラワーアレンジメントで初めて花材として触れた「ニゲラ」。



をる花を育

花を提供する花農家。物言わぬ花たちへ日夜愛情を注いでいます。「お客さんの元できれいに咲いてほしい」そんな思いで働く大平さんに話を伺いました。

まずは花に触れることから

花を育てることは「難しい」とハードルを感じている人がいらっしやいます。もちろん、手間をかけたないと枯れてしまったり、きれいに咲かない品種もあります。しかし植物はもともと自然の中で育つものであり、人間の手を加えなくても育つ種類がたくさんあります。大切なことは、育てる地域と気候に合わせて花を選ぶこと。「みんなが育てている花じゃなくて、珍しいものを育てたい」という気持ちも大切ですが、誰もが育てているということは、育てやすい品種だということ。まずはそういったもので慣れていき、徐々にステップアップしていけば自分の理想の庭が完成すると思います。また、普段の生活の中に花を置

いてみることもオススメです。部屋に観葉植物やフラワーアレンジメント、何なら一輪挿しでも構いません。文字通り、日常に花を添えることで生活が華やかに感じられます。

動画サイトなどでガーデニングの方法などを学べる時代ですが、やはり私は花を見に行くことが大切だと思います。自分の目で直接見る花の色は画面越しとは違いますが、花は体全体で楽しむもの。楽しみ方として香りは外せない要素ですし、指先で花びらや葉を触っても楽しむことができます。花が手入れされているスポットでも構いませんし、花屋さんなどに行けば店員さんや他のお客さんとコミュニケーションを取ることのできる方がおすすめです。花が持つ本当の魅力や感動を味わう

たくさんのお花から気に入ったのを見つけて

園芸科では主にこういった取り組みをしているのですか？

山田さん 基本的な学習や、実験・実習に取り組んでいます。また、農業経営なども学びます。

山野井さん 毎週木曜日に開催している「農高市」で育てたものを販売するほか、近隣の学校の入学・卒業式で使用する花も作っています。

花を育てるにあたって、大変だと思うこととうれしいと感じる瞬間はどんなときですか？

山野井さん 水や肥料の管理のほか、病害虫の対応がとて大変です。それらを乗り越えてきれいな花が咲くとそれまでの苦勞が報われてとてもうれしい気持ちになります。

花の魅力や、楽しみ方を教えてください。

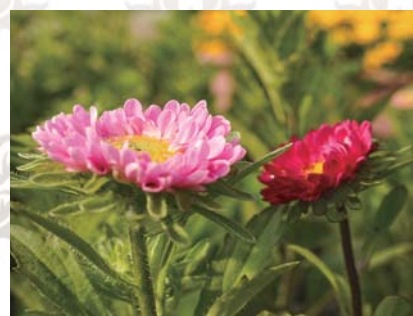
山野井さん 花と一言で言っても、様々な種類や色があります。その人好みのお気に入りが見つけれられる多様さが花の魅力ではないでしょうか。

山田さん 苗を買って育てるのも良いですが、種から育ててみると、土から芽が出てくる瞬間には何とも言えない満足感と喜びを感じることができると思うのでおすすめです。

最後に、花にあまり馴染みがない人へのアドバイスはありますか？
山田さん 花屋さんや園芸コーナーに立ち寄って、自分が気に入った花を部屋に置いてみてください。日常にひとつでも花があることで、家の中が明るく感じられるので、ぜひ花に興味がない方もチャレンジしてみてください。



現在、園芸科の草花部門には2年生2人、1年生3人の合計5人が所属している。



ために、ぜひ足を運んでみてください。そして、自分のお気に入りの花を自身で育てる・飾ることで、花のある暮らしを楽しんでみてはいかがでしょうか。

